

# 令和7年度 第一回 向上委員会（地域連携推進会議）

## 議事録要約

### ■ 開催概要

日時	令和8年2月24日（火） 10時～12時
場所	るりがくえん 多目的ホール
出席者	第三者委員、保護者代表、施設代表（園長・事務長・各サービス管理責任者）、利用者代表

### ■ 園長挨拶

向上委員会は当初、理事会の検討事項を審査する目的で設けられましたが、法改正により現在は法人の事業について広く意見をいただく場となっています。また社会福祉法人として地域貢献が義務付けられていることから、本年度は地域連携推進会議を兼ね、地域とともに進んでいく会を目指します。今回は従来メンバーに加え、利用者も出席し意見を伺いました。

### ■ 各事業所の現状と取り組み

#### ◆ るりがくえん（サービス管理責任者）

地域行事（初詣・節分・いちご狩り）への参加を通じ、利用者の普段と異なる一面を地域の方々と共有できた。

株式会社フジ様とのバレンタイン交流により、利用者の表情が向上。今後も継続して関係を深めたい。

高齢化による身体機能低下で入浴介助時の転倒事故が増加。職員の支援方法と環境調整が課題。

医療機関・保護者・相談支援事業所との連携を平常時から意識して進める。

入所生活介護事業所としての将来の方向性についても検討が必要。

#### ◆ るりワークス（サービス管理責任者）

「いつでも楽しく活動できる場所」を目指し、利用者の思い・生きがい・幸福感を追求した支援を実施。

行政委託が半数を占め、地域企業・法人と連携した作業を提供。自家野菜を使ったカフェ・ランチ会も実施。

利用者は19～80歳で障害も多様。就労支援にとどまらず、休日の過ごし方・恋愛相談等「生活支援」も重要視。

現員 16 名で定員割れのため、楽しい活動と就労支援のバランスをとりながら定員充足に取り組む。

宿泊型自立訓練・短期入所では、ゲーム・SNS への没頭による生活リズム崩壊が増加傾向。女性利用者増加に伴い女性支援員の確保が急務。

#### ◆ りりがくえんホーム（サービス管理責任者）

「本人の声を大切に」「色々なことへのチャレンジ」を支援の柱に、ワークライフバランスを重視。

定員 39 名中 36 名在籍（男性 31 名・女性 5 名、平均年齢 47 歳）。緊急ケース以外はワークスからの受け入れを基本方針とする。

精神・身体・高齢障害者（81 歳）の混在により利用者の我慢が続く状況。身体状況・経済状況も考慮した全シャッフルの検討が必要。

#### ◆ りりがくえんきらら夢 KOBO・きららホーム（サービス管理責任者）

ホテル祭り・宮野まつりへの出店、敬老会のマイクロバス送迎等で地域貢献。令和 8 年度から宮野熊坂地区の資源ごみコンテナ管理も開始。

きらら夢 KOBO の最大課題は職員の高齢化。20～30 代ゼロ、70 代が 2 名おり、10 年後を見据えた後継者育成が急務。

女性用きららホームの設置が継続的な要望として上がっている。

職員の意識改革のため研修参加を促進しているが、「研修が意味なかった」という声もあり引き続き取り組みが必要。

### ■ 保護者からの主な意見・提案

【育成会費助成】来年度から育成会費が 2,000 円→3,000 円に値上がり。利用者への助成額を 2,000 円に変更予定。助成金の渡し方（通帳振込 vs 現金手渡し）について各事業所では対応が異なり、手渡しの方が実感が持てるとの意見あり。

【成年後見制度】子どもの将来を見据え、司法書士と連携して終身制度の見直しや補助人への移行を検討。本人の意思を尊重し、他事業所・関係機関との連携が重要。

【転倒防止・安全靴】スリッパよりシューズ着用を推奨。トイレ等で難しい場面もあるが、安全を優先した対応を改めて検討してほしい。

【保護者の高齢化】保護者自身も高齢化し、帰省や外出支援が難しくなっている。持ち物の記名徹底を希望。

【施設の老朽化】女性用トイレが 1 週間使用できない事態が発生。紙器加工工場の老朽化も課題。女性支援員・女性利用者増加に向けた環境整備を要望。

【利用者の身体機能低下】歩行困難になりつつある利用者への運動・活動機会の確保を要望。

## ■ 利用者の声（日常生活の様子）

質問項目	Fさん（るりがくえん入所）	Oさん（るりがくえんホーム）
居室の過ごしやすさ	過ごしやすい	とても過ごしやすい
楽しい時	働いているとき	働いているとき
やってみたいこと	ワークスで働きたい（手術したため）	今の職場で働き続けたい
相談できる人	担当職員	サービス管理責任者
外出先は	月一買物に連れて行ってもらう。	カードショップや日用品を買いに行く
やってみたいこと	ワークスに行って働きたい	今の職場で頑張りたい、続けたい
苦情箱の存在を知っていますか、書いて入れたことがありますか	よくわからない	知っている 書いて入れたことはない

## ■ 第三者委員の助言

### ◆ Y・H 委員

各事業所のサービス管理責任者の個性は尊重しつつ、一定の統一性も必要。

現状報告にとどまらず、支援計画と同様に PDCA サイクルで課題を検討し「できたか・できなかったか」を具体的に進めていくことが重要。

午後の保護者意見聴取の時間が近年少なくなっている。施設整備・高齢化・子どもに関する貴重な意見のために、より多くの議論時間を確保してほしい。

定員充足・職員不足の根本原因を職員全体で考え、組織強化に向けた実効性のある対策が必要。

### ◆ Y・T 委員

医療との連携・業務改善等、学校側から見ても課題は共通している。

連携を深めるためには「目的・課題・手段・評価」の4点を関係機関で共有することが大切。

### ◆ 園長まとめ

最も重要なのは、しっかりとコミュニケーションをとって情報を共有すること。問題が起きた時だけでなく、日々の様子を家族に伝えることが安心・安全につながる。

### ◆ 施設見学

会議終了後、障害者支援施設とグループホームを見学した。